

教養部会教授 石田 直章

1. 研究活動

研究活動			
中国との比較にみる日本の障がい者スポーツの現状	2012. 3	名古屋芸術大学研究紀要 (第 33 巻)	現在、パラリンピックにおいて世界で最もメダル獲得数が多い中国は、どのような経緯を辿って今の状況を創り上げたのであろうか。本論文は、中国の障がい者スポーツの現状を把握し、その長所を明らかにして、日本の障がい者スポーツの発展に向け、具体的で有効な目標を提案するものである。
IPC Powerlifting Rules and Regulations 2011-2012 翻訳	2011. 1	JDPF(Japan Disabled Powerlifting Federation) 編集	IPC Powerlifting の国際ルールの改定に伴い、日本語版ルールブックの作成に係わり、全 71 ページ中、42.71 ページの翻訳を担当した。

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 ■有 □無

### 3. 学会等および社会における主な活動

第8回日本デイスエイブルパワーリフティング協会西日本選手権大会開催	2011. 5. 15	名古屋芸術大学西キャンパス 体育館 本大会はIPC公認の大会であり、国際大会に参加するために必要な公認標準記録を認定できる大会である。
東海体育学会 2011年度講演会の企画運営	2011. 7. 2	名城大学天白校舎 東海体育学会の理事（企画委員長）として本年度の第1回講演会を企画運営した。講演内容は「高所・低酸素トレーニングの概念と現状」（片山敬章：名古屋大学）、「2010 FIFA ワールドカップの実践で証明された高地トレーニングの効果」（杉田正明：三重大学）であった。
IPC Powerlifting Jordan Open Championships に監督として参加	2011. 7. 20 ～7. 28	Jordan 障がい者スポーツセンター Jordan Anman 市 本試合は、ロンドンパラリンピックに参加するための公認記録を獲得出来る数少ない公認大会である。中東諸国における近年の目覚ましい活躍を実際に視察した。
IPC Powerlifting 3rd Khorfakkan International Championships 2010 に監督として参加	2011. 10. 13 ～10. 20	Khorfakkan 障がい者スポーツセンター UAE Khorfakkan 市 日本から、6名の選手と3名のトレーナーと共に同大会に初参加し、2位1名、3位2名、4位1名という成績であった。
東海体育学会 2011年度講演会の企画運営	2011. 12. 17	名城大学天白校舎 東海体育学会の理事（企画委員長）として本年度の第2回講演会を企画運営し、司会を担当した。講演内容は、「障がい者スポーツの国内外の現状」（中森邦男：財団法人 日本障害者スポーツ協会副理事長・日本パラリンピック委員会 事務局長）であった。